

温室効果ガス排出量 検証報告書

2023年4月26日

株式会社 J-オイルミルズ 様

一般社団法人日本能率協会
地球温暖化対策センター
上級経営管理者 平川 雅宏



1. 検証の対象及び目的

株式会社 J-オイルミルズ（以下「事業者」という。）が作成した算定対象^{*1}における排出量算定結果「2021年度算定報告書」（以下「算定報告書」という。）に記載の2021年度（2021年4月1日から2022年3月31日まで）の以下の温室効果ガス（GHG）排出量情報に関して、事業者は、一般社団法人日本能率協会 地球温暖化対策センター（以下「当協会」という。）に対し、限定的保証を目的とした検証を依頼した。

1) スコープ1 温室効果ガス排出量

算定対象において使用された軽油、ガソリン、都市ガス、LNG、LPG、A重油に伴って直接的に排出されるCO₂排出量、及び、フロン漏洩に伴って排出されるCO₂排出量

2) スコープ2 温室効果ガス排出量

算定対象において電力、熱の使用に伴って間接的に排出されるCO₂排出量

3) スコープ3 温室効果ガス排出量

事業者の事業活動におけるスコープ3 カテゴリ 1, 4^{*2}において排出されるCO₂排出量

検証の目的は、算定方法^{*3}に従って、正確に測定、算出されているかについて、独立の立場から結論を表明することである。算定報告書を作成しGHG排出量情報を報告する責任は事業者にあり、当協会の責任は、独立の立場から算定報告書に記載されたGHG排出量情報に対する結論を表明することにある。

2. 検証手続き

当協会は、ISO14064-3:2019 (Greenhouse gases - Part 3: Specification with guidance for the verification and validation of greenhouse gas statements)の要求事項に従って検証を実施し、以下の事項を実施した。

- 算定報告書に記載のGHG排出量を決定するために用いられた情報に関する、算定方法、排出量算定システム、及び、関連資料の確認
- 算定報告書の作成に関わる主な担当者へのインタビュー
- GHG排出量の正確性を確認するためにサンプリングによる根拠となる資料の確認

3. 検証の結論

算定報告書に記載された 2021 年度の温室効果ガス排出量情報は、算定方法に従って、すべての重要な点において正確に測定、算出されていないと認められるような事項は発見されなかった。

検証された温室効果ガス排出量 (t-CO ₂ e)	
スコープ 1	115,555
スコープ 2 ^{※4}	33,809
スコープ 3 ^{※5}	3,166,376
スコープ 3 内訳	
カテゴリ 1	2,203,090
カテゴリ 4	963,286

NOTE:

※1：算定対象

- ・スコープ 1,2：株式会社 J-オイルミルズの千葉工場、横浜工場、静岡事業所、浅羽工場、神戸工場、倉敷工場、若松工場、及び、株式会社 J-パック
- ・スコープ 3：株式会社 J-オイルミルズ、及び、株式会社 J-NIKKA パートナーズ

※2：スコープ 3 のカテゴリ 1, 4

- ・カテゴリ 1 (購入した製品・サービス)：事業者が購入した原料・副資材、及び、広告活動を対象
- ・カテゴリ 4 (輸送、配送 (上流))：事業者が購入した原料・副資材の自社への輸送を対象

※3：スコープ 1, 2, 3 の算定方法

「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン (ver.2.4)」、「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース (ver.3.2)」、「データベース IDEA v2.3」、及び、事業者が作成した「サプライチェーン CO₂排出量算定基準」

※4：電力の排出係数：電気事業者別調整後排出係数を使用

※5：スコープ 3 の値(t-CO₂e)は各カテゴリの小数点以下も含めた t-CO₂e の合計値

以上